質の高いインフラ投資でジブチの主要幹線道路を改修

迅速実施と「連結性の強化」を目指す

「アフリカの角」地域の物流拠点・ジブチ。ただ、近年は主要幹線道路の損傷が激しく、円滑な物資輸送の大きな阻害要因になっていた。その迅速な改修のため無償資金協力による注目プロジェクトが進行している。案件監理にあたる（一財）日本国際協力システム（JICS）の取組みを追った。

迅速実施を最優先

ジブチの主要幹線道路改修に対する無償資金協力「経済社会開発計画」のE/N（交換公文）が締結されたのは2018年11月28日。供与額は39億円。損傷の激しい主要交通路の改修ということもあり、経済社会開発計画としては規模の大きい支援額となった。

ジブチは、いわゆる「アフリカの角」地域における物流の拠点として重要な位置づけにあり、特に国境を接する内陸国のエチオピアにとっては外港の機能を担うなど、両国の関係は極めて深い。今回協力対象になるのは、エチオピアとの主要交通路である国道１号線のうち、もっとも損傷が目立つ国境からの約20km区間。物流の要ともいえる主要なインフラだけに、その改修はジブチ一国にとどまらず、エチオピアにとっても急を要する、きわめて重要な課題になっていた。

業務第二部地域第六課
緑川 肇氏

関係者によると、改修工事の早期実施を求めるリクエストがエチオピアからジブチ側に度々出されていたという。

プロジェクトの概要を見ると、対象区間の損傷が予想以上に激しく、まず何よりも「迅速性」が求められたことが経済社会開発計画での実施に至った大きな背景である。また、今回のプロジェクトにはジブチ・エチオピア間の「連結性」を強化するという大きな特性があり、この視点からもスピーディーな取組みが重視されたと言えよう。

日本政府は2016年８月に開催された第６回アフリカ開発会議（TICAD Ⅵ）で「質の高いインフラ投資」による「連結性の強化」を重点政策として表明。今回のプロジェクトは、その具体的な取り組みとしても注目されるだろう。

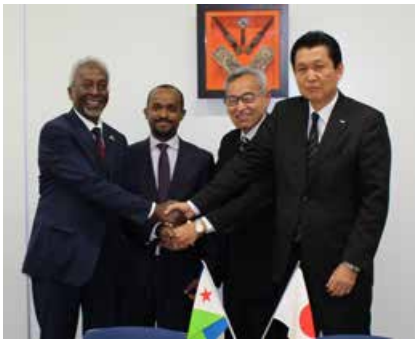
オールジャパンの取組み

ここでE/N締結以降の動きを辿ってみると、締結翌月の2018年12月にはジブチ政府と調達代理機関*である（一財）日本国際協力システム（JICS）との間で調達代理契約が結ばれ、JICSは直ちに詳細設計などを担当するコンサルタント選定に入り、八千代エンジニヤリング（株）と契約を締結。現地調査や関係機関との調整など案件監理業務を開始した。

以後、毎月のように現地を訪ね、先方実施機関関係者らとの調整・協議、サイト調査などをこなしてきたのが、PM（プロジェクトマネージャー）を務めるJICS業務第二部の緑川肇氏だ。緑川氏によると、改修対象となる区間は道路のアスファルトが剥がれている箇所が多い状態で、「ジブチの港からエチオピアに向かう大型トラックの列が、それこそトロトロとしか走れない。損傷の程度は予想以上だった」と話す。

緑川氏らJICS関係者は必要な調査や調整業務などを進めながら、年明けの2019年１月には日本の建設業界向けに説明会を開催。間を置かず、施工者選定のための入札準備を進めていった。経済社会開発計画の実施において、建設業界向けに説明会を開くのはきわめて異例のことで、当日はゼネコン10数社の関係者が出席。関心の

主要幹線道路改修の完成予想図（提供:八千代エンジニヤリング（株））



関係機関・企業が一堂に会した契約署名式で。左からジブチのアホメド・アライタ・アリ駐日大使、スバネ・サイード・イスマエル設備運輸省道路局長、久保徹JICS代表理事、大日本土木・戸田建設JV代表の波多野秀美・大日本土木（株）執行役員・海外支店長

高さが感じられたという。

JICSはコミュニティ開発支援無償などを通し、施設整備案件の経験を積み上げているが、施工についてはローカルの業者を活用するケースがほとんどであった。今回は主要幹線道路の大規模改修という内容に加え、迅速性と高い品質性の両面が求められること、また「連結性の強化」という日本政府の政策的位置づけも踏まえ、調達条件は日本タイドとなり、まさにオールジャパンで推進する支援となった。

入札と契約署名式がJICS本部で行われたのは今年4月。E/Nが交わされてから業者選定まで、わずか５カ月というスピーディーな展開となった。

４月22日に執り行われた契約署名式には、アホメド・アライタ・アリ駐日ジブチ共和国大使、スバネ・サイード・イスマエル設備運輸省道路局長をはじめ、コンサルタントの八千代エンジニヤリング（株）、施工部分を受注した大日本土木（株）・戸田建設（株）共同企業体、さらにJICSが参加。両国のプロジェクト関係者が一堂に会し、プロジェクトの円滑な推進に向け決意を新たにした。署名式の模様は、ジブチ国営テレビのニュースでも取り上げられ、現地側の関心と期待の高さが伺えた。

物流の円滑化に期待

今回のプロジェクトサイトは、周囲に人家などがほとんどない土漠地帯。そのため、アスファルトプラントの設置や工事関係者らが居住するキャンプの設営など準備工が必要になっており、関係者は現在、その対応に追われている。PMの緑川氏によると、来年11月頃には引き渡しと供用を開始し、キャンプの撤去など片付工を含め、2021年２月には全作業を終了する予定という。

工事完了後の開発効果については、貨物量が３万2,900トン/日から４万9,000トン/日（事業完成４年後）、対象区間の平均通過時間は約１時間から20分（同）、また区間途中を流れるワジ（涸れ川）の氾濫による通行止め発生頻度については現在の10回/年から０回/年（同）とほぼ解消される見込みだ。

貿易サービス部門が主要産業になっているジブチにとって、国道１号線を走る輸送トラックなどの走行性の改善・安定化、頻発する横転事故の減少など安全対策の向上は、物流の円滑化と効率化に大きく貢献し、同国や隣国のエチオピア経済に果たす効果は大きい。その意味でも注目されるプロジェクトである。

第７回アフリカ開発会議（TICAD７）の開催が目前に迫っているが、今後のアフリカにおけるインフラ整備、特に「連結性の強化」という視点から、経済社会開発計画も含め、多様な形による支援が期待される。

＊調達代理機関:被援助国政府との契約に基づき、被援助国政府の代理人として入札手続き、売買契約、進捗管理、支払いなど一連の調達手続きを実施する機関。

TICAD YOKOHAMA JAPAN 2019

第7回アフリカ開発会議（TICAD7）は
2019年8月28日～30日横浜市で開催